

学校名	長野ろう学校	
ホームページURL	www.nagano-c.ed.jp/nagarou	児童・生徒数 高等部 16名
(1) テーマ 「ユニバーサルデザイン」  テーマの分類 ( - エ ) 下記の欄外記載事項を参照してください。	(2) 活動の単位に をつけてください  学級・同一学年・3～4年 5～6年・学校・ その他 ( 高等部全体 ) 該当学年 年 (回答可能な場合)	
(3) 活動のねらい 1. ユニバーサルデザインの考え方に触れ、自己の中に「心のユニバーサルデザイン」を醸成する。 2. 複数の教科で学んだことや調査で得た情報を統合して学ぶ力をつける。		
(4) 活動の実際 (活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) 1. 活動内容・・・障害者や老人の疑似体験。調査活動。交流を通して体験・調査活動。講演の聴講。ユニバーサルデザインの物作り。 2. 学習方法・・・教科や領域でテーマに関する教材を開発。指導や学習。 3. 学習形態・・・教科の独自性を活用した複数教科による連携指導。 4. 学習環境・・・校内。市内交通機関。スーパーマーケット。老人ホーム。施設。病院 市役所  時数 (全教科 49時間)		
(5) 指導体制 (校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) 1. 校内体制・・・高等部内全員。教科は教科担任、HRは学級担任。 2. 地域の人材・・・肢体不自由を持つ方や視覚障害を持つ方の講演。先輩による手話指導と体験発表。信大教育学部からの出前講座。先進県の推進者の講演。 3. テーマに連携できる教科間の指導内容の調整。		
(6) 指導上の留意点 (時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) 1. テーマに連携できる教科の選択。 2. 教科の独自性を失わない連携の仕方の工夫。 3. テーマに連携できる教科間の指導内容の調整。 4. 適切な教材の開発。 5. この学習を通して、自らの生活で改めて見つめさせること。 6. 多面的な視点からの現状分析 (地域・外部講師の活用)		
(7) 評価 (基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) 1. 現段階では、連携指導の中でテーマを設けて、教科の立場からのアプローチであるので、教科としての評価をおこなっている。 2. 文化祭で報告展示、HP (予定) 等により、外部の方々からの高い評価を得た (評価の実際)。		
(8) 成果と課題 1. 生徒一人一人が問題意識を持って取り組み、夏休みには自ら課題を設けて地域の調査をするなど、発展的に学習した。 2. 体験的・実践的な学習を通して、障害を越えて、様々な人との交流を深めた。また、このことにより、人に対する優しさが育った。		

テーマの分類 横断的・総合的な課題 ( -ア 国際理解 -イ 情報 -ウ 環境  
-エ 福祉・健康 -オ その他 ) 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や  
学校の特色に応じた課題